

游美

- 1 小池 恵子さんの作品と
作品についての言葉
- 2-3 『游美』100号記念特集
近代美術施設界 尾崎 正明
友の会会員 中川 純一
- 3 新任・退任のご挨拶
- 4 『游美』100号のおゆみ
- 5 作家紹介 立木 雅子先生
- 6 ランス美術館コレクション
若冲と京の美術
- 7 采に赴く
- 8 理事会・代議員会報告
あとがき
- 9-10 『游美』号別記事一覧



小池 恵子『山百合』

2009年／パネル、油乳油絵、着絵具／F20号／2009年石岡市美術館

幼い頃過した実家はお寺で、その周りを竹山が囲むようにあって、毎年7月頃になると、竹藪の緑の草むらの中に山百合の花が涼しきにあちこちに咲いて、子どもの私の目には白い花の精が現れるのかと思ったほど幻想的に咲りました。その後客駄や保育園が建てられ竹山はほとんどなくなりましたが、敷地内にある古墳の林の中にまた山百合の花が咲くようになりました。退職後、小林眞吾先生のご指導を戴ける幸運に恵まれ、日本画を学ぶ事が叶った私

は、早速山百合の花をスケッチしました。先生は「大切な事は何でも良く見て描く事」。花の形も前からだけでなく後の形、横向きの姿もよく観るよう、堅く閉じた蕾、咲きかけた花弁の美しさ、そして茎から出ている葉の一枚一枚、よく見つめて描く事で幅やかな自然の美しさに気づくものだ」と言われ、多方面から物を見る事の大切さを教えて下さいました。この山百合の花の絵は先生から御指導を戴いた思い出に残る作品となっています。

(石岡市在住)



「游美」創刊100号を祝って

茨城県近代美術館館長 尾崎 正明

茨城県近代美術施設友の会の会報誌『游美』が、創刊100号を迎えたことを心よりお祝い申し上げます。会報誌を発行すると一口にいっても、それは大変なことです。毎号の企画、原稿の依頼と授受、掲載回版の用意など、紙面のレイアウトや印刷は著者に任せるにしてもかなりの時間と労力を要く必要があります。いきおい完刊が不定期にならざるを得ないのは仕方ありません。それでも、1989(平成元)年に『友の会だより』として第1号を出されてから、途切れることなく引き継いでこられた担当の方々のご苦労にあらためて敬意を表したいと思います。

さて、友の会の歴史も既に30年も半ば近くになりました。創立以来、友の会の皆様には長きに亘って美術館を支えて頂き、感謝の意にたえません。その間、美術館も皆様に美術を鑑賞する楽しさを、少しでも多く味わっていただこうと様々な展覧会を企

画してきました。今年度も「若冲と京の美術」、「いわいとしお×岩井俊雄 100かいだてのいえとメダイアートの世界」、「辻 永」、「戦後日本版画の展開」など多彩なプログラムを準備しています。

また年度末には、「達水潤舟」展を開催します。画家としての生涯はわずか30年ほどの短いものでしたが、潤舟は一ヶ所に留まることなく常に新しい世界を求めて活動し続けました。その間、写生的な作風、細密描写といわれる徹底した写実的表現、東洋の伝統に立ち戻りながら、平面的で装饰的な画面構成にモダンな感覚を示す人物画や、墨と色彩の微妙な調和が作り出す優美な花鳥画に数多くの優れた作品を残し、近代の日本画に大きな足跡を残しました。今日は日本画約100点に素描を加え、潤舟の絶え間ない挑戦の跡を辿ります。是非、会場でお見せください。

友の会への入会は、極くまで個人タクの意思によるものです。普段は会う機会も少なく、接点つきも比較的緩やかな組織にならざるをえません。従って、全体としての会員間の意思疎通もなかなか難しい筈です。そんな中で会報誌は会員同士の心を繋ぐものとして、また美術館との懇親橋としてこれまで大きな役割を果たしてきたように思います。特に現今のコロナ禍にあっては、その意義は一段と高くなつたといえます。友の会のますますの発展のためにも、この会報誌が今後もより一層充実したものとなってゆくことを願っています。



達水潤舟「牡丹」
1986(大正15)年 絹本着色・錆緞 37.3×49.1cm 藤山記念館蔵

「游美」100号に寄せて



茨城県近代美術館
友の会会長

中川 純一

茨城県・近代美術館友の会の会報誌『游美』の第100号発刊にあたりご挨拶申し上げます。美術館友の会の創設は社説に例を見ない運びであったと伺っております。1988(昭和63)年10月1日に美術館の開館が決まると、それより3ヶ月前の7月に友の会の設立趣意書が12名の発起人により提出され、会員募集と同時に活動が開始されました。以来この会報誌は毎年3回の発刊を休むことなく継続され、ここに100号の発行となりました。これは他には類例のない快挙です。

こうした素晴らしい活動は会員の皆様はじめ関係各位のご協力の賜物と改めて深く御礼申し上げます。また歴代の会報委員の皆様のご努力には敬意を込めて感謝申し上げます。

会報誌は団体の会員をつなぐ洋として大切な役割を果たしておりますし、友の会の活動の記録としても大切なものとなっております。

これからも素晴らしい活動が会員各位のご協力により実現されますよう、ご祈を申し上げご挨拶と致します。

新副館長のご挨拶



茨城県近代美術館
副館長

金澤 宏

4月1日付で天心記念五浦美術館から異動してまいりました。

それ以前、2000(令和2)年度までの3年間、当館の企画普及課長を務めておりました。1年ぶりの近代美術館での勤務となります。どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、近代美術館友の会は、1988(昭和63)年の開館以来、当館の活動を支援されますとともに、美術館訪問や研修事業など幅広く活動されてこられました。

さらに、近代美術館企画パートナーシップ事業にはイニシエイターメンバーとして参加され、昨年度からはゴールドパートナーとしてご支援を

いただけます。あらためて御礼申し上げます。

コロナウイルス感染症の流行は半世紀の災禍となりましたが、ワクチン接種等の対策が進み、社会全体でコロナとの共存が進んでおります。友の会におかれましても、今年度は各種事業を少しづつ再開させていくことを喜びます。

当館といいましても、「県民に愛され、親しまれる美術館づくりをめざす」という基本理念に従って、感染症対策を徹底しつつ、美術展や教育普及事業を展開してまいりますので、会員の皆様には、今後とも、ご支援、ご協力を賜りますよう、お願いいたします。

前友の会事務局長のご挨拶 報恩感謝



前友の会事務局長

石井 孝

近代美術館には3年間お世話になりました。最初の1年は企画普及課を、2年目から友の会事務局を担当することになりました。4月当初は慣れない事務局の仕事に日々不安やストレスを感じておりましたが、役員の皆様を始め多くの方々が不慣れな私を温かく迎えてくれ、しかも丁寧なご指導まで頂きました。何とか2年間頑張ったことがで

きました。皆様にこの場をお借りして改めて感謝を申し上げる次第です。

コロナ感染状況の出口が見えない中、友の会の活動は今後も色々な制約を受けるかとは思いますが、会員皆様のご健勝と友の会の益々の発展を祈念しております。2年間本当にありがとうございました。

新友の会事務局長のご挨拶 友の会の活動の再開に向けて



新友の会事務局長
沼田 祐一郎

平素より会員の皆様には大変お世話になつております。このたび、4月より新たに友の会事務局を担当することになりました沼田でございます。私は、近代美術館勤務第3年目となります。昨年度までは、美術館ボランティアの全体調整を担当しておきました。

さて、友の会は、年間を通して、絵画教室、国内・海外の研修旅行、講演会など多様な

活動を会員の皆様に提供してまいりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、具体的な活動計画が立案できない状況が続いておりました。

今年度は、可能な限りの感染対策を取りながら、友の会の活動を順次再開していく予定ですので、会員の皆様のご支援ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

「游美」100号のあゆみ

会報委員長 奥村 雅子



友の会は、1988(昭和63)年10月茨城県近代美術館開館に伴い、美術文化の拠点である美術館に親しみサポートするためと、美術館を通して、会員相互の教養や親睦を深めることを目的に、有志の方々によって設立されました。当初会員は2000名を越していましたが、現在は約750名の会員で構成されています。理事会、代議員会が年一回開催され友の会の予算、決算、企画、会報、(会報誌『游美』)は会報委員会によって年3回発行、行事等が実施されています。

(1) 友の会会報誌『游美』について

第1号は「友の会だより」として事務局発行、第2号からは会報委員によって作成。同号で「友の会だより」の名称を会員から公募、第3号から名称を『游美』と命名しました。

(2) 「游美」の由来

応募の中から、猪引一夫氏提案の『游美』が選ばれました。第9代水戸藩主徳川高昭公が弘道館開設にあたり論語より選んだ「游於學」(世に遊ぶ)を参考にした名称です。

(3) 「游美」の題字

3号~26号 竹内藤男氏(当時の茨城県知事)、27号~78号 永谷典子氏(友の会会員より公募)、79号~ 川又南岳氏(書家)の各氏が揮毫されました。

(4) 主な掲載内容

○美術館 1号~78号 企画展及び所蔵の作品 B5版、79号~ 会員の作品 A4版(会員の記事掲載を増やすため、企画展紹介を削除した79号より、企画展が紹介されている「美術館だより」を会員に、「游美」と同時配布) ○連長に聞く ○世界の美術館 ○茨城の園人たら ○所蔵品紹介 ○企画展紹介 ○横顔 ○わたしと絵 ○美術館ボランティア紹介 ○我が街のモニュメント ○父を語る ○「探訪」茨城県在住の作家を訪問 ○学芸員に聞く ○美に游ぶ ○心に残る私の一点 ○ギャラリートーク

○講習会 ○10周年記念講座会 ○30周年記念座談会 ○30周年記念行事・茶話会 会員作品展(記念として新『游美』ファイルを製作し全会員に配布) ○海外美術鑑賞旅行 ○国内美術鑑賞旅行

友の会の会報誌である『游美』が、1号から100号に至るまでコロナ禍にも休まず発行できましたのも、会員の皆様及び歴代の連長様(佐秀夫氏、加藤真雄氏、市川政憲氏、尾崎正明氏)始め学芸員、施設員の皆様のご協力のお陰と深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

(5) 創刊号からの『游美』の内容概略リスト

本号9~24ページに、1号から99号までの『游美』の記事一覧を掲載しました。一通り目を通していただければ幸いです。





洋画家 立木 雅子先生を訪ねて

雪に思いを込めて

透きとおった画面に影を映す家並。背景の暗く青黒い木々が林立する丘は真っ白な平らかな雪に覆われ、それら全てを包み込むように、ただ静かに雪が降っている。自分もこの場所に立ってみたいと旅心を誘われる風景。この詩情あふれる作品を描かれたのはどんな方なのだろうと、色々想像しながらお会いするのを楽しみにしていた。日立市民会館の一室でお話を伺った立木先生は、ほっこり優もった笑顔のようにふんわりとしているから、明るくパリフルな方でした。

先生が描きたいのは、「ウマーーー」と感情が詰まぶられる場



『雪が降る』
2022年 油彩・キャンバス / F130号 光風会展

所。ときめきを100パーセント超えた「絶対描こう」と思った場所。チェコのチスキー・クロムヒツの街を歩いていてふと振り返った時、「私、ここで生きていける」と思ったという。魅了するような視点で描いたこの町にもやはり雪が降っている。先生は、オーストリアの湖水地方、ヴォルフガング湖対岸の風景も多く描いている。足が重くてつくるような寒さの中での描いたホテルや駅舎。人々の灯りの下にはそこに生きる人それぞれの営みがある。雪降る景色の中に感じる人の息づかいや温もり。人の息吹を感じてこそその風景とおしゃる先生は、家の開取りやそこに住んでいる人たちのことも想像しながら描くという。子どもの頃、雪への憧れがあったという先生は、大人になった今も、様々な思いを追らせながら画面に雪を降らせていているのではないかと思った。

小学生の頃は漫画や似顔絵などを描くのが好きだった。高校美術部で3年間、大崎寅一先生にみっちり指導を受け、近くまでデッサンに取り組んだという。卒業後は一人でボツボツ描きながら、刷金・書道・木彫りなどにも手を広げていた。下のお子様が大学入学後、恩師大崎先生を訪ね、絵をやりたいと申し出たところ、「君は絵を止めるか、僕のところに来て勉強するかだ」と言われた。もちろんOKである。先生の主催する「ひみみ会」で本格的に油絵に取り組む。

そんな中、県の夏季講習会で町田博文先生の指導を受け、町田先生が主催する海外旅行に誘われた折、光風会に入会しないかと言われ、迷った末入会。2011年(59歳)だった。その後、何度もマルタ、チェコ、オーストリアなどを訪ね、心動かされた風景を精力的に作品にしていく。2011年、光風会展初

出品で入選。以後光風会展 勝賞、会友賞を複数受賞。翌2012年に日展初入選。以来、2014~2021年「ブエンテライナの寒造り」2006年 油彩・キャンバス F100号 光風会展



にかけて 日展に連続入選し、日展会友となる。また、2021、2022年と連続して光風会員賞を受賞している。まさに快進撃である。

日展、光風会展、県展、市展、連合展等に出品するため、作品制作に費やす時間は多い。主婦の仕事をこなしながら、1日5~8時間制作に当てるというが、先生はそれを果しんでいらっしゃる。作品はかわいい我が子だと。以前の作品はラバベル。そこを1ミリでも貰えたいとも。また、大崎先生、町田先生を始めとする多くの人の出会いがあったからこそ命があると。最も身近で先生の創作活動を理解し育てて下さるご主人に、「君は運営始めたね」と言われた。それを最大の褒め言葉と捉えていると朗らかにおっしゃる先生。今後益々のご活躍が期待される。



『雪が降る』
2017年 油彩・キャンバス / F100号
秋田県立美術館

立木 雅子(たち まさこ)
Masako Ito Tachikai

- 2011 光風会展初出品、初入選
- 2012 光風会展入選、日展初出品、初入選
- 2013 光風会展入選
- 2014 光風会展入選(光風会員賞受賞)、日展入選
- 2015 光風会展入選、日展入選

- 2016 光風会展入選(光風会員賞受賞・分友賞)
- 日展入選
- 2017 光風会展入選、日展入選
- 2018 光風会展入選(光風会員賞受賞・会員賞)
- 日展入選
- 2019 光風会展入選、日展入選

- 2020 光風会展、ヨロナウイエスのなか井止・日展入選(日展入選)
- 2021 光風会展入選(第1回光風会員賞受賞)
- 日展入選
- 2022 光風会展入選(第2回光風会員賞受賞)
- 河井 光風会員 日展会友
- 佐野 光風会員

ランス美術館コレクション 風景画のはじまり コローから印象派へ

2022年2月9日～3月27日

ランス美術館コレクション展での再会

富永 篤

梅の花が満開の頃、ランス美術館で出かけました。貴重の至宝であるゴビーコレクションや、モネの「ペリールの岩礁」と茨城県近代美術館所蔵の「ボーラー：ドモリの洞窟」のコラボ展示の妙を楽ししながら、「放牧地の羊の群れ」（シャルル・ジック）という初めて見る絵の前に立った時、既視感と懐かしさで足が止りました。ジックはミレーとともにバルビゾンに住み、後にバルビゾン派の一角を占めた画家として知られています。

さかのほすこと30年程、ある画廊で一目見て気に入り衝動買いました。それが彼の作品でした。「牧歌」と題され、小説か戯曲の挿絵のような体裁で画家の名はその時初めて知りました。

どちらも羊の愛らしさや謎めきが表現され、回数で見比べると、誰たる根拠もないのに羊獨いの姿形、日差しの明暗のつけ方、影のみで描かれた牧羊犬、森の情景などから吉場だと直感しました。

回数の、ランス美術館長カトリース・ドゥロ氏によると「彼は、このカンヴァスの裏に『クロワジックで描いたことを保証する』と記載」し、ル・クロワジックに「羊を放すために牧場を購入した」とあります。そこは、ロワール川がビスケー湾に注ぐ込む河口近くに位置しており、なぜそのような地へ?と意外でした。

バルビゾンを慧いつつも、理想の主題となる地を

追い求めたジック。彼はそこに羊の群れが憩う桃源郷を造り、そして忠実に描いた…かもしれません。写実的な風景画があったからこそ、印象派は生まれたと今更ながら腑に落ちたのでした。



シャルル・ジック (1833-1894) 「放牧地の羊の群れ」
1873年 油彩・キャンバス、81.2×66.4cm
©MMA Reims 2019 Photo : M.Begat-Gilon

ムヤコ 若冲と京の美術—京都 細見コレクションの精華

2022年4月23日～6月12日

一大テーマとなった伊藤若冲の作品を中心とした「若冲と京の美術」展が開かれた。京都・岡崎の細見美術館の所蔵品の中から、若冲の作品16点のほか、歌仙絵、茶の湯の美術、物語絵、琳派の絵画等週りすぐりの美術品90点が展示された。細見美術館館長細見良行氏による記念講演会「細見コレクションと若冲」、細見美術館主任学芸員伊藤京子氏による座談会「細見コレクションでめぐる京都」の開催イベントも開催された。大阪の実業家であり茶人であった初代細見良氏から3代にわたる珠玉の蒐集について、良氏は「我が子」を愛おしむ様に語られた。早くから若冲に着目してきた細見家ならではの、若冲自身のエピソードなど興味ある内容満載の講演であった。伊藤氏は琳派について分かりやすく解説された。ゴールデンウイークをはさんでの開催で多くの会員に鑑賞していただいた。



細見美術館内ギャラリートークの様子



浮世絵「雀中庭図」江戸中期

美遊ぶ

アトリエ訪問

みやかど ともやす
宮角 知安



山田紀代子さんを紹介します。紀代子さんは私の50年未の友人である山田弘夫君の奥様で、茨城県美術展覧会会員であり日展会友、光風会会員でもあります。アトリエを訪問して沢山の素晴らしい作品を見せていただきました。



「裏通りのバラ」
2012年 油彩・キャンバス／550号／墨縁

あらためて紀代子さんに絵を描くようになった動機とか長年続けて来られた秘訣などお話を聞かせていただきました。

小学生の頃から水彩連盟会員であったお父様にスケッチなど連れていってもらうような環境にあつ

たこともあり絵を描くことが好きになったそうです。いつしかお父様のような美術教師になろうと茨城大学教育学部美術科に進学し、在学中から水戸市展、茨城県展に出品していました。

23歳で結婚し3人の子育て、夫の転勤、祖母喪父母の介護でゾランクがあったようですが、自己表現の大切な手段として、更に私夫君のサポート、協力でここまで続けてこられ、今なお活躍されていることに感銘いたしました。

最近は八百屋さんシリーズ、花



「5月の庭」2021年 油彩・キャンバス／650号／墨縁

屋さんシリーズに取り組んでおられますか、風景、人物なども丁寧に描いていて私はそこに安心と懐やかな心地よさを感じています。

出来れば個展を開き多くの人に鑑賞していただきたいと願っております。

(水戸市在住)



「静かな街」2018年 油彩・キャンバス／550号／墨縁



「green grocery」2018年 油彩・キャンバス／F100号／墨縁



「Flower shop」2021年 油彩・キャンバス／F100号／墨縁

理事会・代議員会報告

2022年5月14日(土)代議員会が開催されました。コロナ禍のため、理事会・代議員会を同時に開催し、予算、決算、事業計画等が承認されました。

会長挨拶の後、副總長 金澤宏氏新任の挨拶と、新任教員の紹介がありました。さらに、管理課長 佐藤義一氏及び友の会事務局長 谷田祐一郎氏新任の挨拶、並びに、パートナーシップ事業の田口克弥氏よりパートナーシップの活動報告がありました。

今年度の企画委員会活動として、海外旅行、宿泊を伴う国内旅行は計画しない、越國講習会と写真講習会、講演会を計画;会報委員会では、3回の「春先」

発行計画;PR委員会では、随時、ホームページ(HP)の内容更新とHPのリニューアルの検討予定が承認されました。



実際報告収録の理事会・代議員会

2022年度役員・委員の紹介

役 業	氏 名			
顧 問	鈴木吉志男			
会 長	中川純一			
副会長	瀧田賢三 由山美浜			
事務局長	谷田祐一郎			
監 察	小林正和 鈴木 南			
理 事	青木正雄 朝倉真也 石井 幸 大貫広司 藤村強子 木村 利 幸 尾剛 小松 義 坂場英利 厚原 浩 内藤 学 井岡修平 戸塚幸光 中村昭彦 谷田祐一郎 斎田卓也 高須健二郎			
代 議 員	宮川眞理子 川村 良 寒地清治 五嶋英門 東野圭二 佐伯佳子 鈴木 南 伊藤喜美江 富水 輩 旗屋正典 松本寛子 宮田幸江 吉本千恵子 植木順子 山田一二 山中美喜男			
企画委員会 委員長	瀧田賢三			
委 員	川村 良 佐伯佳子 富水 輩 宮田幸江 旗屋正典			
会報委員会 委員長	奥井雅子			
委 員	宮川眞理子 松本寛子 植木順子 山田一二			
PR委員会 委員長	谷田祐一郎			
委 員	鈴木 南 富水 輩 松野 近 宮田幸江 植木順子 山田一二			

注:掲載せられた会員のみ掲載
2022年6月30日現在

あとがき

○変わらぬコロナ禍の中をもがきながら、「春先」は100号の発行を迎えることができました。創刊号から顧みるところ、どれほど多くの会員の方が、活動や熱い思いを「春先」に寄せてくださいましたことか。あらためて感謝ををおぼえます。本号9~24ページに「春先」1号から99号までの記事一覧を掲載しております。少し分厚い付録ですが、「春先」の思い出のよさにご覧ください。

○達山記念館、達水御舟「牡丹」の制作

提供及び掲載許可を、澤渡吉廣学芸員に取得していただきました。感謝申し上げます。

○ウンヌ美術館、シキル・ジック「放牧地の牛の群れ」の画像提供及び掲載許可を、澤渡吉廣学芸員のご尽力により取得することができました。感謝申し上げます。

○福島美術館、伊藤若冲「雪中旅籠図」の画像提供及び掲載の許可を、水松主任学芸員に取得していただきました。感謝申し上げます。

茨城県近代美術館 友の会会報
游美 No.100

発 行 2022年4月7月
編集・発行 茨城県近代美術館友の会
〒310-0851
水戸市牛込町東久屋666-1
TEL 029-343-5111
E-mail: fm0001ml@gmail.com
H.P.: <http://www.fusuma-e.com/>

印 刷 件式会社 光和印刷

『游美』号別記事一覧

号	発行	p1	p2	p3	p4	p5	p6	p7	p8	備考
99	2022.2	小西川力雄 細	序説 椎野忠夫 (日本美術) 執筆:高橋慶樹	奥に潜む コロナ禍の 歩み高麗 中野あゆ子	心に残る 私の一点 葛松田英輔と 森の美 鈴木尚 「春風」100号 原稿をお寄せ ください	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、 友の会活動休止のため、4頁構成				4頁構成
98	2021.10	井田正子 重の朝	井田正子 副編長 宮崎 雅 佐川美術館 (洋画部) 執筆:山田一	序説 代議員会報告 会員 特別企画リスト	心に残る 私の一点 吉沼英寺 井田正子 田中亮介 「心に残る」 「奥に潜む」等 原稿募集	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、 友の会活動休止のため、4頁構成				宮崎 雅 副編長就任 (2021.4) 4頁構成
97	2021.6	青木正雄 踏地の朝 (季刊)	序説 佐藤 翔 (日本美術) 執筆:街村雅子	奥に潜む 凸凹を歩む それでもいいのだ 花川真理子	心に残る 私の一点 フェルメール 「牛乳を注ぐ女」 西澤理子 (かねこ)	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、 友の会活動休止のため、4頁構成				4頁構成
96	2021.3	丸 ま	序説 藤原 明 (洋画部) 執筆:山田一	奥に潜む 岩を描いています 安藤一郎 友の会からの お知らせ 会員登録募集	心に残る 私の一点 神仙虎満 「朝日が昇る」 河川泰弘	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、 友の会活動休止のため、4頁構成				4頁構成
95	2020.11	宇留野 信幸 君が来た	波後10周年 平山郁夫 シルクロード コレクション展 平山郁夫展を 鑑賞して 朝田安生	奥に潜む 街中ラオフィス に南島の風を 男 正雄	心に残る 私の一点 蘭を描む レンブラント 水野和彦 友の会からの お知らせ 友の会の活動 と新規コロナウ イルス感染症 茨城県近代 美術館理事長 パートナー集 めへのサヨ	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、 友の会活動休止のため、4頁構成				4頁構成 訂正 p1 吉田清江 II 吉田構成
94	2020.5	吉田清枝 経 然 (うえざん)	親友の会会長 ご挨拶 日本三大 美術館と 呼ばれてい る十勝美男	親友の会会長 ご挨拶 新井のこ縫力 とご支援を 願って 中川純一	奥に潜む 新井の会 富士美術館 コレクション 私が足を 止めた一点 河野敬子 奥に潜む ミディアート 喜びを描くへ 松本篤子	6月で勢い解く ・洋王の革命 富士美術館 コレクション 私が足を 止めた一点 河野敬子 奥に潜む 心に残る 私の一点 新井の会 北川阳江	友の会からの お知らせ ・友の会一連 の行事の中につ いて ・理事会・代議 員会の中止と それに伴う 事務整理につ いて ・2020年度役 員会の紹介 ・法人・特 別会員会紹介 ・まちの会 PR委員会委 員会			友の会 会長 若木義志男 II 中川純一 友の会 事務局長 大庭立向 II 石井季
93	2020.2	内山静子 香	序説 鶴木久夫 (色彩画家) 執筆:山田一	奥に潜む 青島生馬先生 の内弟子 源内由美	#65 秋画展旅行 滋賀 日暮の美術館 と田中芦我城 をめぐる旅 岸田惠子	会員のためのGT 「甘丁夢二展」 甘丁夢二の ロマンの旅方 の世界 中村秀夫 デジタル学習会 講師 清水 俊 デジタル学習会 にせきして 青島せき子	プレミアム 講義会場コー ヒータイム 講師 新井台農 中川純一 デジタル学習会 講師 清水 俊 デジタル学習会 にせきして 青島せき子			

号	発行	p1	p2	p3	p4	p5	p6	p7	p8	備考
92	2019.10	戸田和子 用を詰く活 字く書く	翠蘭なる サンクトペテ ルブルクへ 石川多恵子	モスクワの 聖母堂と 世界遺産の 町へ 海野洋子	序説 竹江静志子 (聖母堂) 松井 邦川(聖母堂)	美に生き 「きみ」を 基督教徒 藤本喜大	会員のためのGT 「手探り中興」 手探り虫 ワールドを 知りたくて 木村宏廣			
91	2019.7	初山定子 カンフリア 紀の聖歌	新潟1周費の ご挨拶 藤本忠男	序説 アビルショウゴ (聖母堂) 毛奈、ルノア ル、大畠から 感謝まで GTIに参加して 想付 緊	264 聖母前 施設旅行 東京 国内聖母施設 旅行の感想 小野寺織	美術講座の あゆみ	代表委員会報告 2019年度 収支総括 法人・特別委員会 紹介 行事予定 訂正 No.90.14回			藤本忠男 副総長就任 (2019.4)
90	設立 30周年 記念号	海野尚子 ひるこがり のアトリエ	浅城豊 近代美術研究 会の会員として 30周年記念 行事を振り 返って 副会長、 戸田義三	30周年記念 行事の日 聖母会があこ なされました 茨城県近代美 術研究会担当 佐伯康子	30周年記念 行事の日 聖母会があこ なされました 茨城県近代美 術研究会の会 員会出席品	国内聖母施設 旅行のあゆみ	海外聖母施設 旅行のあゆみ (ヨーロッパ編)	海外聖母施設 旅行のあゆみ (アメリカ編)		打正 p14 「心に残る私 の一曲」 ・美野喜大 ↓ 矢澤 審由 ・田代一樹達
	2019.3	p9	p10	p11	p12	p13	p14			
		#63 秋葉原施設旅行 横田内 内での見所とおまなみ活 動)3日目の前に参加して 中根克之	アンケート 「あなたと近所との一面の 思い出は?」 大島ひろ子、樋村忠芳、 幸野田代枝、山田一二、 中村美由紀、 中澤一、伊藤和也、聖司則	学芸会に聞く 今瀬生和 音楽学校音 楽部高橋麻子	序説 嘉島尚解 (切り始業式) 松井 邦川(聖母堂)	心に残る 私の一点 「おもてなし」 矢澤 審由				
89	設立 30周年 記念号	立川いく ラフタ クリーン	度数会「次の会30周年を迎えて」 今までと、これからと 会長、藤田義三(会員)、 副会長、横田信三(会員)、 事務局長、大畠正広 北川伸博、佐藤裕彩、南野真二、 佐藤京子、牧田安生、辻良貴美 度数会担当 奥村雅子(純色会員)、山田一二、青木順子、 川村良、荒川理子、松本寛子	友の会 事務局・藤田義 前の想い出 藤本寛子	学芸会に聞く 藤田義三(会員) 前田義三(会員)	序説 藤田義三 (日本聖母)(藤本 寛子)	#30 アメリカ聖母 施設旅行			打正 p11 コートドー ル美術館 ↓ コートドール 美術館
	2018.11	p9	p10	p11	p12					
		#30 アメリカ聖母施設旅行 登録したアメリカ聖母施設旅行 上中千鶴子	美に生き 横田生田会 藤本寛子正直	アンケート 「あなたと近所 との一面の 思い出は?」	心に残る私の一点 「ピヨートル大帝」聖母聖母 *訂正(88号p7)					
88	設立 30周年 記念号	池内愛子 誕生日に	30周年記念寄稿 近代美術は 絶一派ブランド 会長 藤本義三男	30周年を 記念して 船長 藤本正明	序説 山口和子 美術評論 家藤原(聖母堂)	美に生き 横田生田正 (聖母堂) 松井 邦川(聖母堂)	#62 聖母前 施設旅行 東京 2つの南高崎 と2つの仕事 河野義理	会員のためのGT 「聖母像への おくりもの」 GTIに参加し ての感想 片瀬文枝		*打正 p7 大野吉紀聖 母施設旅行 正しくは 「渡烈岩から 4人組」
	2018.7	p9 2018年度会員登録会員登録 心に残る私の一点 木村政山(秋草山開拓 工事事務)	p10 30周年記念アンケート 「あなたと近所の 一面の思い出は?」	p11 30周年記念 「次の会 活動状況」	p12 30周年記念 「次の会 お知らせ」					

号	発行	p1	p2	p3	p4	p5	p6	p7	p8	備考
87	2018.3	全原厚生 アレッサ ヌ河 (スイス)	学芸員に聞く 小原一 副会長 田中勝彦 (執筆 田中勝彦)	序説 武石謙作 (洋野山一)	書くがぶ 典故への思い 大塚伸子	#29 チエコ オーストリア 美術高旅行 いわき・五浦	#61 秋葉酒 島高旅行 いわき・五浦			
86	2017.10	吉井牧雄 浩樹、 野の風	学芸員に聞く 村山佐知子 西常字芸主事 (執筆 村山佐知子)	文化庁 新芸術家 海外研修制度 50周年記念展	文化庁 新芸術家 海外研修制度 50周年記念展 吉井清勝	序説 庄司 翼 (洋野山一) (執筆 庄司翼)	書くがぶ 足を運ばなくて は立たない 若手二つ 中川裕一	友の会 会員作品展		
85	2017.7	佐野利子 いつの 日々	学芸員に聞く 福田新輔 学芸員 (執筆 福田新輔)	序説 菊池元男 (洋野山一) (執筆 菊池元男)	書く おこに 難解から易 じっくりぱんの スクリーチ鑑賞 藤枝正 田口亮介	#59 夏 岩村 島高旅行 青森	会員の十利治・ 十和田市美代 美術館 七川耕造 三重弓削は 者性が薄く 差違青森	友の会 代議員報告		
84	2017.2	青柳泰二 山角千鶴 ペーラント ワルシャフ	書簡 中山虎之 鹿庭茂史 厚生効果に よせて 尾長 尾崎正明	学芸員に聞く 大村健太郎 主任学芸主事 (執筆 大村健太郎)	#58 秋葉酒 島高旅行 京都 紅葉の京都に 美を求めて 神長正工 世界遺産「古 都京都の文化 財」にふれて 阿由葉酒工	#56 夏 岩村 島高旅行 郡山 西岸美術 工のドリューリ 境田聰三	会員のたのGT 乙女デザイン アドマイジ リの世界 GTに参加して 志村選手			
83	2016.9	高橋 春 水野智日	学芸員に聞く 高木京子 西常字芸主事 (執筆 高木京子)	序説 瀬川由美 (今井作志) (執筆 瀬川由美)	書くがぶ ペルギー 歩行記 (想へのメール) 大塚伸	心に残る 私の一点 吉田 情 「光る刷 古谷行健	作家の お知らせ			
82	2016.6	西脇静子 鶴見 木の実 だから 美くがぶ 和歌美法 (いんぱう) 小松 雅	新副総長の ご挨拶 田口亮介	学芸員に聞く 中田監修 前席字芸員 (執筆 中田監修)	序説 鶴田仁興 (田口亮介) 支 番の ひととき ありがとう 今早由美子	#55 夏 岩村 島高旅行 東京 支 番の ひととき ありがとう 今早由美子	会員のたのGT 「あした天気になーあれ！」 翻訳の腕前力 に感動!! 奥澤由理			田口副総長 社長 p2美くがぶ 「鏡」→「鏡」 No.83で 訂正のこと

号	発行	p1	p2	p3	p4	p5	p6	p7	p8	備考	
81	2016.2	石井 翼 初夏	学生賞に聞く 飯塚豊子 主任学芸員 朝峰 七本實子	洋詩 内海義史 (洋画家) 佐藤山田一	#54 秋実前 島高旅行 山田一 映秋の夢上川 のきらきら 長谷川崇子	美に感心 輝くガラスに 魅せられて 井井鈴子	企画のためのGT 「6つの儀式」 不思議の説が 解けた 児童美術子				
80	2015.10	森井範亮 船瀬り	学生賞に聞く 花井久香 主任学芸員 朝峰 七本實子	洋詩 野澤二郎 (洋画家) 佐藤山田一	#28 スイス美術 島高旅行 辻しきつ スイス美術 島高旅行 辻田崇子	美に感心 予供にて絵本 コロブラーー 大人にて 美術脳迫り 向井鶴也	色彩豊 心に嬉しい 色 田代子 小学生のため の工作教室				
79	2015.7	溝水 優 久慈海堂 15 音の丸し	学生賞に聞く 吉田衣里 主任学芸員 朝峰 七本實子	洋詩 真鍋秀紀 (日本画家) 佐藤七本實子	#53 香島高旅行 寺尾京 優かしさと 楽しみと ち由美子	美に感心 ちょっとそこを 見て 宮田幸江	新規挑戦者の ご挨拶 大賀正司	79号から厚首低減のため B5判用紙から A4判6頁に削減 79号以降の表紙は会員の 作品を紹介	大賀正司 尾長和也 (2015.4) 横山空要 川又南恵氏 豊郷 A4版に変更 山田裕 光和印刷		
78	2015.3	畠多川 歌麿 青雲傳 船あそび の女たち 主任学芸員 主事 横山裕也	学生賞に聞く 横山裕也 主任学芸員 朝峰 七本實子	企画展紹介 近革 ベン・シャーン 原 学生賞主事 朝峰 七本實子	洋詩 新山元子 (七生作例) 佐藤七本實子	美に感心 自分の時間 寺門鶴子	#52 秋実前 島高旅行 宮島 心うきうき 横田千男	企画のためのGT 「作家アリエ」 作品の生れる ところ 坂本充実	心に残る 私の一点 凹凸ブルーに 魅せられて 鈴木昌義	長谷川學務 尾高さと (2015.3)	
77	2014.11	野沢二郎 水野／ 瀬明 学生賞 水野左和	学生賞に聞く 水野左和 学芸員 朝峰 七本實子	企画展紹介 近革 美川牛乳 主任学芸員 星野健雄 天心 岡田和99回 南雲 益田裕子主任 三代博紀	洋詩 星野大千 (日本画家) 朝峰 七本實子	美に感心 美田智哉の 名作 「恋愛」に想う 長澤祐光	#51 香島高 島高旅行 稻葉 再発見 歌麿 「第10の墨」 半川多賀代	企画のためのGT 「中風琴一張」 美しく 夢のある世界 矢部雅子	心に残る 私の一点 その強い 世界は豈 プロセッピナ ロセッティア 赤崎千子		
76	2014.7	ヴァシリー カンドン スキー 松の中 の茶 主任 学芸員 井野圭一	新潟長の ご挨拶	学生賞に聞く 尾崎正明	洋詩 井野圭一 主任学芸員 朝峰 七本實子	#27 ドイツ美術 島高旅行 寺尾京 聞いてびっくり、 見て仰天 神農正史	企画のためのGT 「四百人衆の命 100年記念展」 ギャラリー トニーにて 中村伸子	企画のためのGT 「フランス 万華鏡」 ギャラリー トニーにて 仁井明美	企画展紹介 天心 水 の シンボニー 吉田充義 尾高祐佐子	尾崎新潟長 開創記念 社主	
75	2014.3	ルノワール ドモゼル フランソワ 主任 学芸員 岸田麻理	齊橋 村山定身像に かかれて アトリエの ひととき 元企画長 藤本勝子	心に残る 私の一点 やなせかわし 「オオヒ」 窓川真理子	洋詩 土手武彦 土手千鶴子 (監修主任) 朝峰 七本實子	美に感心 寒咲と 不平のこと 小野勝久	企画展紹介 近革 中原第一原 主任学芸員 今柳和也 天心 佐藤太廣 原田宇三主事 三代博紀	企画のためのGT 「夏なるものへ」 解説を書いて、 作品により 近くづく 山田一	美竹美貴 作詞		

号	発行	p1	p2	p3	p4	p5	p6	p7	p8	備考
74	2013.11	妻田晋平 吉澤 主任 学芸員 井野功一	寄稿 中村典 「三崎海岸」 一柳村治点の 特定 海羽市宇 舟木力雄	所蔵品から 下村義山 「大原之瀬」 主任学芸員 井野功一	企画展紹介 天心 「花が咲き、 鳥は遊ぶ」 企画学芸主事 野内 治 美に惹か モザイクの町 世界遺産チ	#48 評論 北沢 計 (洋画研究) 美術・美術史 野内 治	#49 秋葉行 高橋法行 横浜 得てました ブースキン 美術研究 池田真理子	#49 秋葉行 高橋法行 横浜 企画展紹介 佐野正男 2013年度 友の会新会員	企画のための GT (松田千佳監修) GTで新たに 見出した 松本慶子	
73	2013.8	森田 千佳監修 みんな わざわざ 「アーブル 星組のゆ たり」より 主任学芸員 今瀬祐和	所蔵品 島の ご挨拶 栗原 良人	企画展紹介 近巣 豊なるものへ 宇喜多重光和 天心 白石心と文化村 主任学芸員 稲葉穂子 つくば 白子会員へ 主任学芸員 吉田文理	所蔵品から オーギュスト・ ロダン「三つの刺」 群長 小原淳一	評論 著者 現代西洋美術 開拓者たち 美術・美術史 小原淳一	#26 イギリス美術 高橋法行 イギリス田畠 豊島と美術を めぐる 安藤泰也	美に惹か 絆でかみと 修旬 梅村 実	心地良き日々 クロードモネ 「日出」 後竹斎	副館長 奥田良人 会報芸術 栗村聰子、 山田一、 松本慶子、 宮川萬代子、 角田静子、 井野功一
72	2013.3	アンド リューワ イエス 體の中の オルバンの 家 日常 学芸員 平野 扶生子	2012年 私が書いた 展覧会 —BEST5 高野博明	美に惹か 我が愛する 郷土への オマージュ 水谷 雅	評論 鳥山 翔 (洋画研究)	#47 秋葉行 高橋法行 横浜 布藏作品から 鶴谷守「夜」 群長 小原淳一	正直展紹介 近巣 「カクラナイ」 ノスマヌ 西尾学芸員 平野扶生子 天心 寺田弘二/クレジ むかがいの山河 主任学芸員 中田豊晴 つくば 「白子会員へ」 (予定)		日本美術院 講師 練田理絵	
71	2012.11	細井英男 ・音の美静 野原春 (山口より) ・井野 吉澤 主任 学芸員 小林佐知	所蔵品 細井英男(2) 水を望む 市川政志	所蔵品から 震災による 被災品回収の 初期について 首席学芸員 平野扶生子	[特集] 火で燃る一色五郎 一色邦彦	評論 大坪由明 (日本書店)	企画展紹介 近巣 二年油。自然 と空間。そして レイエム 主任学芸員 今瀬祐和	再開催第9回 震災 赤坂五指揮 首席学芸主事 三代将紀		
70	2012.7	須田 國太郎 大 主任 学芸員 井野功一	所蔵品 島の ご挨拶 佐川 美代子	企画展紹介 近巣 須田國太郎の歌と色彩 学芸員 小林佐知 天心 ウォルト・ディズニー・署 主任学芸員 大平 周 上村桂 春奈 主任学芸員 稲葉穂子 つくば 中野利治(通称)の歌たち 首席学芸員 山口和子	橋長裕博(1) ひとつ 佐川美代子 (洋画研究)	評論 佐川美代子 (洋画研究)	(東日本大震災 11号飛行 隊用) #25 フランス美術 高橋法行 井玉の美術研究 めぐり 廣野弘子	#46 音楽行 高橋法行 冬草 町田市の 美術館を 訪ねて 伊藤慶子	心に残る 私の一点 現代美術は アフリカの 伝説から 始まった 岩本慶子	心に残る 私の一点 現代美術は アフリカの 伝説から 始まった 岩本慶子
69	2012.3	小川千路 横川 主任 学芸員 今瀬祐和	評論 横川 吉澤(洋画研究)	美に惹か 一枚の絵から 田山真輝	#45 秋葉行 高橋法行 横浜 境力との 初めての 出会い 長岡健平	#25 フランス美術 高橋法行 ホーリー 島津学芸員 山口和子	企画展紹介 近巣 ストラスブル 美術研究 顧主任学芸員 平野扶生子 天心 佐藤與有野 コレクション 高橋法行 主任学芸員 中田豊晴 つくば 中野利治(通称) の歌たち(予定)	企画人の こと 岩本慶子	企画教室 講師 清水佳	

号	発行	p1	p2	p3	p4	p5	p6	p7	p8	備考	
68	2011.11	宇宙住人 ペムラー と彼ら ウルトラ マン／ 吉田 主任学芸 主事 喜田友利	ご挨拶 皆を喜ぶ男 新会長、 室伏勇 副会長 列記	美に喜ぶ 人生なでしこ 企画展示 平田英夫 (七宝作家)	評筋 所蔵作品から 小川李路 「葉狩の山の川」 音楽学芸展 舟木力英	#44 愛媛府 最高旅行 千葉	企画展紹介 近美 小川李路展 音楽学芸展 舟木力英	心に残る 私の一点 近美忠芳	企画展紹介 近美 小川李路展 音楽学芸展 舟木力英	吉田友利、 室伏勇、 喜田友利、 吉田充志	
67	2011.3	雅樂此二 夢想 学芸書 水松左和	#43 秋與雨 最高旅行 神奈川	#24 イタリア実業 最高旅行 北イタリア 高島義重の旅 喜田義三	評筋 島 利 (美術家)	美に喜ぶ 清夏 -わらっぽー- 小林正和	所蔵作品から 清宮賛文 「まよひ桜」 河邊へ一夢の 中リ 主任学芸主事 喜田友利	企画展紹介 天心 佐藤義典コク ション花鳥両月 桂田清美・佐藤義 北京の富士 桂田清美大字原 近美 喜田友利喜田義 舟木力英セ 吉田充志学芸 喜田充志三女葉	心に残る 私の一点 変わりゆく 故郷 本宮公夫	企画展紹介 天心 佐藤義典コク ション花鳥両月 桂田清美・佐藤義 北京の富士 桂田清美大字原 近美 喜田友利喜田義 舟木力英セ 吉田充志学芸 喜田充志三女葉	デジカメ撮影会 講師 山口ヒロナリ 絵画教室講師 清水 俊
66	2010.11	パウル・ クレー 女の裸 副主任 学芸書 喜田友利	[特集]夢を語る— 洋画家 梁朝暉子	美に喜ぶ 谷田川嶌 (美術家)	評筋 美に喜ぶ 絆と連絡、 仕事と遊歩か 木村 利(ある)	所蔵作品から 中村義、「自画像」 学生等門真 舟木力英	企画展紹介 近美 ふるごとを語る 桂田清美・佐藤義 天心 吉田充志学芸 舟木力英	企画展紹介 近美 ふるごとを語る 桂田清美・佐藤義 天心 吉田充志学芸 舟木力英	心に残る 私の一点 ひまわり 川崎寧子	絵画教室 講師 清水 俊	
65	2010.7	ディック・ ブルーナ 46年「ここ らまでは つかへ いくより」 喜田充志 喜田友利	村に 生きて いたて たが 天心、いのちのかがやき 主任学芸書 中田聰所 近美 さよなら海平二郎 副主任学芸書 今浦和也 天心、鶴山南風原 主任学芸書 梁朝暉子	評筋 斎藤博文 (日本書店)	所蔵作品から 木村武山 「青荷春香山」 宇多喜 水野左和	美に喜ぶ 水野に学ぶ 鳥毛正明	#42 香楽前 最高旅行 千葉	#42 香楽前 最高旅行 千葉	心に残る 私の一点 沼尾繁 辛 雄一 デジカメ教室 講師 山口ヒロナリ	副題共 喜田充志	
64	2010.3	ルート マクリット 9月16日 西野学芸書 山口和子	#41 秋明月最高旅行 山梨 秋の美術最高旅行に参画して 小林敏み子	評筋 横田 浩 (美術家)	美に喜ぶ 学生で人の愛が 見えるところの 方ひと 喜地 翔	所蔵作品から 佐藤忠良 「静子」 主任学芸主事 喜田友利	企画展紹介 近美 川根廣成 コレクション展 副主任学芸書 舟野弘一、 天心 山口仁平 宇多喜 小西勤士 つくば 都道府AY-O 最高旅行 岸信子	心に残る 私の一点 水彩画 横田和子子	企画展の お問い合わせ		
63	2009.11	小林聖寧 Portrait- resting cheeks in hands 主任学芸書 喜田充志	評筋 辻 深 (美術家)	美に喜ぶ ゴル中の 「ひまわりの ように」 佐野剛子	[特集]友を語る— 日本画家 中田聰人 愛情の聖書 田中聰人先生の思い出 武幕 彰(元佐藤太田市長)	所蔵作品から 中村義 「カリビスの恋み 歌のある静物」 舞長 小学校第一	企画展紹介 近美 アントワープ 王立美術院展 天心 小井曾巳の世界 主任学芸書 船津雄子	心に残る 私の一点 レブン アントワープ 王立美術院展 天心 小井曾巳の世界 主任学芸書 船津雄子	企画展 講師 清水 俊		
62	2009.7	喜田友利 副題の板 副主任 学芸書 喜田友利	新刊発表の ご挨拶 萩野谷 茂	正直展紹介 天心 大手町の街は 狂歌と音楽で 日本全国から 世界遺産の旅 近美 さよなら 井野和也 副主任学芸書 喜田充志	評筋 中村義季 (美術家)	所蔵作品から オーレードミト によるリート の喜田自25 最高旅行 舟木和子 山口和子	美に喜ぶ 焼き物と ともに 夏目明子	#40 香楽前 最高旅行 2つのリート アルベルト 喜田新・西洋 美術館	心に残る 私の一点 窓の街 庄屋健司	副題共 喜田谷広	

号	発行	p1	p2	p3	p4	p5	p6	p7	p8	備考	
61	2009.3	安田駿吉 伏見の 花亭	#39 秋平酒造萬葉旅行 神奈川 満室を御内にゆで 透迄洋子 村の美術館萬葉旅行に参加して 生村透子	屏风	美に喜ぶ 南庭彰男 (日本書院)	正直原紹介 近美 英治・クルセイ 日野洋輔 天心 万葉のこころ を盡く 世界遺産「古 いづくば 祖谷山の世 界遺 分県長 市川力雄	手賀代をきらう 裏路 岩田 正 強羅銀行 船橋駅口門	手賀代をきらう 裏路 岩田 正 強羅銀行 船橋駅口門	手賀代をきらう 裏路 岩田 正 強羅銀行 船橋駅口門		
60	2008.11	エリザベス トロイース・ヴィジ アーブラム フランス王室 マリー・アントワネットの胸 主役伊賀 山口和子	[特集]父を織る— 洋服屋 藤井和雄 尾と脚の縫物—美の技術者 藤井和雄	屏风	美に喜ぶ 山中重明 (牛窓町)	正直原紹介 近美 安田駿吉 原 主任伊賀 中田駿馬 天心 飯田多功一 旗主伊賀 有澤透子	心に残る もの一点	心に残る もの一点	友人と その作品 高下 滉		
59	2008.7	廣木 晃郎 妻の春香 境(音子) 伊賀 吉田衣里	アートのまわりに —豊島20周年に あたって 逸原 市川政志	屏风	美に喜ぶ 芦田和子 (人形作家)	#38 喜美加藤萬葉 木本 想せられる 十二の部 矢部雅子 ナッシュの不 思議の魅力 佐藤梅子	正直原紹介 近美 大ナガ・オノ長 天心 ごんごつねと 井川儀の世界 土井主司・川柳 つくば 船橋の傳 船橋駅口門	心に残る もの一点	勝の喜 石井健雄	藤原悠 藤寺克次	
58	2008.3 開幕 20周年	東山木暮 五 佐 中村尊 カルビスの 吉川の 鳥居野	#37 秋平酒造萬葉旅行 長野 開跡 畠井の美術館 名島山伴子	屏风	美に喜ぶ 六嶋歌光 (東京府)	正直原紹介 近美 喜谷博義 主任伊賀 平野扶佐子	天心 近代日本画に みる懶さ 女性たち 宇摩貴 栗原麻理	心に残る もの一点	心に残る もの一点		
57	2007.11	東山木暮 井 伸 吉原 宇摩貴 小早川一	[特集]父を織る— 日本昔 木村武山 木村邦正	屏风	美に喜ぶ 森田吉雄 (日本書院)	正直原紹介 天心 喜谷博義 主任伊賀 平野扶佐子	[特別寄稿] —100歳記念 森田吉雄 市川 寄せて 想い出の記 鍋島は光	正直原紹介 天心 喜谷博義 主任伊賀 平野扶佐子	正直原紹介 天心 喜谷博義 主任伊賀 平野扶佐子		
56	2007.7	小野竹青 沼	率せでした 前原良 越後唯	夢に目覚めて 市川政志	屏风	美に喜ぶ 白木和之 (樹齋藝術)	正直原紹介 つくば 喜村竹青 からオカルトへ 至る開拓劇 天心 帝の夢猿一 小池と岸鷗一 道臣と黒留墨 大連吉助の人生 龍田利一・多喜一	mito見て!虫 を見て 山口ミサ子	正直原紹介 つくば 喜村竹青 からオカルトへ 至る開拓劇 天心 帝の夢猿一 小池と岸鷗一 道臣と黒留墨 大連吉助の人生 龍田利一・多喜一	正直原紹介 つくば 喜村竹青 からオカルトへ 至る開拓劇 天心 帝の夢猿一 小池と岸鷗一 道臣と黒留墨 大連吉助の人生 龍田利一・多喜一	藤原 市川政志
55	2007.3	加山又造 副主任 宇摩貴	#35 秋平酒造萬葉旅行 宮城 色彩の饗宴 クリー 村上義男	屏风	美に喜ぶ 森川利朗 (オブジェ・アーティスト)	正直原紹介 近美 ボップ・アート 主役伊賀 キスリング喜 主役伊賀 天心 小島庭園 宇摩貴 墓田雅雄	つくば 川上生吉 分県長 舟木力雄	つくば 川上生吉 分県長 舟木力雄	つくば 川上生吉 分県長 舟木力雄	心に残る もの一点	
		吉 吾 中田駿馬	#36 オランダ 半蔵萬葉旅行 フェルメール への旅 伊藤亮介	屏风	美に喜ぶ 森川利朗 (スケッチ 美術 石井寛)	正直原紹介 近美 ボップ・アート 主役伊賀 キスリング喜 主役伊賀 天心 小島庭園 宇摩貴 墓田雅雄	心に残る もの一点 木のフクロウ 村田透子	心に残る もの一点 木のフクロウ 村田透子			

号	発行	p1	p2	p3	p4	p5	p6	p7	p8	備考
54	2006. 11	村山宏 ルーランの整室 学生賞 吉田和重	特集 父を語る—船村洋一 後藤清一 後藤清一 人と作品と藝術と 後藤清一	美に喜ぶ ループは 迷い 春 和重	探訪 見習修作 (石井作成)	所蔵作品から カミーユ・ピサロ クリエイターの 五ヶの机の オーナーズ 主任学芸員 山口和子	企画展紹介 天心 天心と日本美術 窓の原風たち 副主任学芸員 橋本隆子 副主任学芸員 山口和子	近畿 加山又造展 副主任学芸員 中田哲司 心汽流の一日 手作りの ソーザー 東京次回	「心に残る 私の一点」 開始	
53	2006. 7	大下 義次郎 多喜川耕 主任学芸員 山口和子	代議員会 会長 室伏 勇 近美 学部の情報収 甲賀賞 今瀬和也	企画展紹介 つくば 連携展示開 始指揮官打合 天心 江戸上北斎の 墨書き五丁目と 浮世絵品展 副主任学芸員 武石 卓	探訪 相田泰子 (日本書院)	所蔵作品から 相田泰子 「浮世」 群長 森本隆子	美に喜ぶ 皆が 永田政子	#34 春美術 東京旅行 那馬 始は前のない 音楽 朝市田 直 会いたかった 「ひまわり」 守町サツ子	わが街の モニュメント ごくら大賞 宮原一 つくば市音楽	[わが街の モニュメント] 了
52	2006. 3	松岡伸丘 星雲の 貴臣 副主任 学芸員 中田哲司	#33 秋明会施設旅行 優島 静謐なる庭園市に昔人を想ふ 平尾庄智子 平尾庄智子 平尾庄智子 #19 スペイン美術高級旅行 ノルセロナは 主石裕 和知利子	探訪 五川透一 (洋画)	所蔵作品から 中西利建 「魔術と女」 主任学芸員 山口和子	美に喜ぶ 誰く喜び、 見る楽しみ 南野圭二	企画展紹介 つくば イノウマラ浩 副主任学芸員 中田哲司 近美 山口裕泰 学芸員 沢井一 安光のハチワ ンから静謐な名 ロコまで 主任学芸員 平野秋子子	美心 伊東家水戸 学芸員 澤井哲司	当真誠 講師 青木正雄 作品 安第一郎、 後田元也、 奥村武洋	
51	2005. 11	寺 重 紫陽花一 向の美術 の活動 (モナリザ の美術の デザイン) 加藤信三 君工俊夫	特集 詩を語る—歌学 岡 南沖 齊家 川又南岳	探訪 林田英輔 (金工)	美に喜ぶ ファーブル 「LE PETIT SAMUEL」 永谷典子	所蔵作品から 片岡玲子 「君の喜士」 (毎日) 西野学芸員 小林厚一	企画展紹介 つくば 知田義彦 河間良舟力添 天心 天心記念切符 美術の世界たち 副主任学芸員 武石 卓 川又南岳 副主任学芸員 橋本隆子	近美 壁の音楽—身 中の時代—西 田田道頓昭助		
50	2005. 7	安井 義太郎 全 著 学芸員 井野弘一	企画展紹介 天心 藝術家の日本画 副主任学芸員 橋本隆子 つくば ケーテ・コルヴィッツ展 分館長 舟木力添 十河雅興の世界展 分館長 舟木力添 近美 魅惑の17-19世紀 フランス絵画展 副主任学芸員 主任学芸員 山口和子	近美 片岡玲子 副主任学芸員 平野秋子子 美に喜ぶ 至善の ひととき 岡田清江	探訪 南野圭二 (洋画)	所蔵作品から 齊田香英 「財和清」 群長 森本隆子	#32 春美術 東京旅行 那馬文を喜める 友の会 吉田頃枝 ループは美術 館裏を覗て 大喜豪行	わが街の モニュメント 夏の華 那馬文二 府主町 レイエスヨウル 高野明治		
49	2005. 3	井田青柳 水辺香穂 副主任 学芸員 中田哲司	#17 チェコ・オーストリア 美術高級旅行 「プラハ」から 「ウィーン」へ 平野秋子子 #16 夏 チェコ・オーストリア #31 秋季美術高級旅行 那馬	探訪 藤田耕二郎 (日本書院)	美に喜ぶ 机川麻子 「ガングーラ」 美術に 魅せられて 奥村雅子	所蔵作品から 小川李路 「財和清」 群長 森本隆子	企画展紹介 近美 「気まぐれ美術 座」之内コレ クション展 西野学芸員 小林厚一 天心 天心めぐり日本 「心づる花— 宇野重 里原前原	わが街の モニュメント エーラ海に 舞く 木内克 日立市郷土 博物館入口 清宮新一郎		

号	発行	p1	p2	p3	p4	p5	p6	p7	p8	備考
46	2004.11	川合玉堂 津村留喜 吉井学芸 主事 船江俊夫	母を詠るー 洋画家 原田 雄 卓絵工芸作家 原田麻耶	母を詠るー 洋画家 原田 雄 卓絵工芸作家 原田麻耶	序説 大原義成 (きりはるゆき)	美に喜ぶ 美を詠す日々 舟長切子	所蔵作品から 木村武山 「阿波守人」 舟長 森本周子	企画展紹介 近郷 寒蘭なる梅花 の豪情 佐野洋一 天心 宇都日本画の 魔界 船江玉堂と 豊山大曾の 墨跡 島田玉堂と 豊山大曾と近代日本 墨の巨匠たち 船江玉堂と豊山大曾	わが街の モニュメント 水戸の シンボル タワー 石川俊雄	
47	2004.7	香月季男 青の太陽 西沼洋 吉井学芸 主事 船江俊夫 舟長 舟江俊夫	企画展紹介 天心 近郷 船江正則と書道 の水 津村留喜 宇都宮 寒蘭 原田 船江 天心 平野扶佐子 宇都宮 寒蘭 山口和子 つくば 新宿御苑でさざ 安政光緒世界書 分舟長 舟江力雄	企画展紹介 天心 近郷 船江正則と書道 の水 津村留喜 宇都宮 寒蘭 原田 船江 天心 平野扶佐子 宇都宮 寒蘭 山口和子 つくば 新宿御苑でさざ 安政光緒世界書 分舟長 舟江力雄	美に喜ぶ 自然を感じる まさに 立原田	#30 香美術高富旅行 宇都宮下界	序説 香耶 潤 (宇都宮)	所蔵作品から 横山大観 「花魁」 舟長 森本周子	代議員会開催 実所産と協力 し、魅力ある 事業を 会長 室代 男	甜党長 西沼洋 事務局員 長谷川慶子 (2004.4)
46	2004.3	青山原晴 由市の 里道 主任 宇都宮 山口和子	私と美術 (3) 八木一夫さん 舟長 加藤尚雄	序説 小堀尚久 (宇都宮)	#15 イタリア美術高富旅行 花の都・フィレンツェ 中山彌彦	企画展紹介 天心 秋川和 高富旅行 宇都・宇都 江口に詠られて 及坂 未	企画展紹介 天心 大原義成 コレクション 宇都宮 井野勘一 つくば 駒崎一郎 臣嘉明 分舟長 舟江力雄	美術の 団人たち 木村武山 舟長 森本周子	美心 現代日本画 への想い 主任宇都主事 木村正徳	美術指導員 赤任 (2004.3)
45	2003.11	石井耕三 一ヶの恩 (6) 吉井学芸 主事 船江俊夫	父を詠るー 日本書道 稲佐多日進屋 父と私	私と美術 (2) 津田千八郎 さん	企画展紹介 天心 近郷 船江千八郎 津田千八郎 さん	美に喜ぶ 久ーと出合う 津田桂子	美術の 団人たち 中村典 舟長 森本周子	企画展紹介 近郷 吉井学芸 主任宇都主事 山口和子		
44	2003.7	山口原晴 幻化 副主任 宇都宮 中田哲則	私と美術 (1)京都時代 舟長 加藤尚雄	美に喜ぶ 花を楽しむ 宇佐美紀子	企画展紹介 近郷 エヴァンスニア 船江康 主任宇都主事 平野扶佐子 宇都宮治の 全貌 宇都宮 小野原一	序説 津田政治 (木口千奈恵監修)	美術の 団人たち 小川李枝	わが街の モニュメント 大と口笛 小堀尚久 (立原 規)	事務局員 宇都宮子 →高木 品	
43	2003.3	奥田元中 副主任 宇都宮 山岸重義 中田哲則	#13 イギリス美術 高富旅行 ロンドンの藝術 の前に散かれて 人馬溝一 音を聴いた 絶景の旅 佐野裕子 #12 葉 イギリス	#27 秋川和 高富旅行 高富	企画展紹介 天心 いわむちじり舟 舟長 木村正徳	序説 寺本静正 (江吉作序 [木工])	美術の 団人たち 溝原 寛 舟長 森本周子	わが街の モニュメント 笠 笠原重義 船江千鶴 川村 桂 斎藤昭子 講師 鶴澤健治 作品受取料 、西部 善 審査行工		

号	発行	p1	p2	p3	p4	p5	p6	p7	p8	備考
42	2002.11	村井正樹 たくまし き人々	父を語るー 影村家、西宮台郡	探訪 島嶼美空 (日本首歌)	美に喜ぶ エディンバラ、 グラスゴーを 近くで3日間 松田慶子	茨城の 喜人たち 高崎重治泰昌 飛田満山 伴長 池原祐也	企画展紹介 近畿 高崎重治泰昌 小堀道 宇野真一、中庭利則 天心 室澤の世界 宇野真一、高橋洋子	わが街の モニュメン 女神像 佐藤淳 笠井克 笠井義弘 天心 室澤の世界 宇野真一、高橋洋子	わが街の モニュメン 女神像 佐藤淳 笠井克 笠井義弘 天心 室澤の世界 宇野真一、高橋洋子	
41	2002.7	柳谷守一 大部監修 主任 学芸員 小林厚一	企画展紹介 近畿 ドップ表現 主張の藝術 宇野真一 井手功一 友の会への 入会をお説いて ください	探訪 十河雅典 (洋画家)	茨城の 喜人たち 二世 五代田芳樹 宇野真一、高橋洋子	美に喜ぶ 井に 魅せられて 小室香奈 #36 音楽美術旅行 書本苑 「ショパン」 吉村実	所蔵品の紹介 柳田 昭 『月夜の境』 主張 梅江伸夫 #36 音楽美術旅行 書本苑 「ショパン」 吉村実	わが街の モニュメント 愛 一色和邦 ひたちなか市 文化会館前 副院長 伊藤進也 一郎山研究所 所長 新井雅長 吉川栄英	わが街のモ ニュメント 開拓 副院長 西川栄英 企画展 藤本南子 日常学芸員	
40	2002.3	アンディ・ ウォーホル 花 主任 学芸員 平野桂子	#11 フランソワ・モリエール美術旅行 二度目の旅 伊藤清志 ランスとリビ ンを訪ね 松木良子 高橋洋子 #25 和田栄 高橋洋子 高橋洋子 高橋洋子 高橋洋子 #35 リカルドの再会 アントニオ モリエール 便益などとき 吉岡敏枝	企画展紹介 茨城の 喜人たち 前田正治、宇野真一、高橋洋子、 高橋洋子、高橋洋子、 高橋洋子、高橋洋子 #10 東 ロシア	探訪 松浦松夫 (グラヴィール 作家)	茨城の 喜人たち 造形美術 課長 金原宏行	美に喜ぶ 松浦松夫 (グラヴィール 作家)	企画展紹介 茨城の 喜人たち 造形美術 課長 金原宏行	~すばらしい 【ミニ美術館】 めぐり~ 常岡圖文 センター 水戸市	
39	2001.11	竹宮寛治 日向豊五 藤長 原宏行	父を語るー デザイナー 茂木篤次郎 父のある角度 桂木景子	探訪 田中裕人 (日本首歌)	茨城の 喜人たち 山下りん 群長 金原宏行	美に喜ぶ エルミタージュ とシカゴの一枚 名思 武 河原町市議会 議員 高木正徳 内閣官房主事、高 寺孝子、立岸忠	企画展紹介 近畿 高木正徳 名思 武 河原町市議会 議員 高木正徳 内閣官房主事、高 寺孝子、立岸忠	企画展紹介 【ミニ美術館】 めぐり~ さくら土建 ミューズ美術館 高木正徳 天心 大曾根一 大曾根一 高橋洋子 高橋洋子	~すばらしい 【ミニ美術館】 めぐり~ 常岡圖文 センター 水戸市	
38	2001.7	ピートル・ ブリューゲ ル(父) 出会い 新潟県 伊藤 達也 (小説)	企画展紹介 近畿 イタリア船の20世紀美 宇野正義、平野桂子 つくば 一色邦彦、高橋洋子 川上弘美 伴長 天心 藤 宇野真一、高橋洋子	探訪 大内豊弘(鹿児島) 大内正子(鹿児島) 特別展示 西尾晃 木村健山 「湖南鉱業の食料戸砦」 高橋洋子、藤本房子	美に喜ぶ 柏原浩子 賀川桂子 高橋邦明 #34 音楽美 高橋洋子 西尾晃 新井の美術館 を近くで 後藤みよ子	茨城の 喜人たち 水戸市立 博物館 水戸市	美に喜ぶ 柏原浩子 賀川桂子 高橋邦明 #34 音楽美 高橋洋子 西尾晃 新井の美術館 を近くで 後藤みよ子	企画展紹介 茨城の 喜人たち 水戸市立 博物館 水戸市	~すばらしい 【ミニ美術館】 めぐり~ 水戸市立 博物館学芸員 中野明	
37	2001.3	下條 順 部 騰 川崎香音 在 緑 学芸員 中田聰明	企画展紹介 近畿 後藤義一先生 とその出会い 高橋洋子	#9 ドイツ音楽美術旅行 「黙病の薬枕」 をみて 津田 あかね(小説)	探訪 川又豊島 (書)	茨城の 喜人たち 中田聰明	美に喜ぶ 天心 村山忠義 秋葉高志 ルーン(小説) #8 東 ドイツ	茨城の 喜人たち 中田聰明	~すばらしい 【ミニ美術館】 めぐり~	
36	2000.11	エドワード・ ホッパー 庵 切 伴長 谷 事 喜美代	父を語るー 影村家 小寺邦夫 相田氏民女 中井亨子	探訪 茅原信子 (洋画家)	茨城の 喜人たち 立原吉所 群長 金原宏行	美に喜ぶ ウィーンの 美術館めぐり 海老原千恵 天心 日本経済新聞 宇野真一、高橋洋子 つくば 高橋洋子 作品、其の御 鑑、草木深次、 伊藤義志子	企画展紹介 近畿 第2回現代美 術作家宇野真一 天心 日本経済新聞 宇野真一、高橋洋子 つくば 高橋洋子 作品、其の御 鑑、草木深次、 伊藤義志子	~すばらしい 【ミニ美術館】 めぐり~ 土浦市立博物館 土浦市		

号	発行	p1	p2	p3	p4	p5	p6	p7	p8	備考	
35	2000.7	上村桂 序の葉	平岡 副会長 石川 明	正直園紹介 近美 オーバル 美術館開館	美に喜ぶ 感性を磨く 市毛 史	周囲密に 魅せられて 寺門みよ子	伊勢 嘉徳広司 (木村吉弘)	茨城の 日本人たち	一すばらしい 【ミニ美術館】 めぐりー	石川明 副会長	
34	2000.3	バブロ ビカソ 母と子 学芸員 今井 寿	中村義の 最初の作品 「三輪馬車」に ついて 課長 金原宏行	美に喜ぶ 中世が喜づく 「ペルギー」に 喜ぶ 佐藤延年(太良)	#2 ベルギー美術高旅行 ペルギー美術の 旅 可成行 苗島義典 中村ミコト #3 ベルギー #22 秋高裏旅行 愛知 前の出会い 井伊美智留	フレンド被服 と出合て 猪 千鶴子	伊勢 重田英子 (洋服室)	茨城の 日本人たち	開館祝賀 オープン	企画要紹介 近美 日本美術のれし つくば 三田村眞弓と 《総合造形》 天心 竹下夢二の世界	
33	1999.11	大沢昌助 喜 河 半田昌 正夫 北畠ノ奈 主香 溝口 優	父を慕る— 劇作家 木内 売 木内 売のことなど 劇作家 木内 売	美に喜ぶ わが心の 小さな旅 野田由季子	茨城の 日本人たち	正直園紹介 近美 [リード] 大学コレクション 学芸員 今井 寿 つくば 「王」の世界 ガブリエル・ カスティーリョ 天心 横山大輔 宇多真幸注目	林十江 (日本画家) 課長 金原宏行	河崎晴路 西所学芸員 藤本恵子	企画要紹介 近美 日本美術のれし つくば 三田村眞弓と 《総合造形》 天心 竹下夢二の世界	一すばらしい 【ミニ美術館】 めぐりー	藤原泰、 武子剛二
32	1999.7	藤山北窓 光 畠 学芸員 中田廣則	うしろ香 副会長 武戸 剛二 大島義 和歌野 豊 井川 こじま 香織 百合	正直園紹介 オーバル 美術館 平岡 副会長 猪 延年 猪 延年 井川方英	美に喜ぶ 人生はP-D-S 構成主計	伊勢 寺村 喜 金原宏行	茨城の 日本人たち	日立市朝土 喜代也 日立市 井川 大森昌也	茨城の 日本人たち	一すばらしい 【ミニ美術館】 めぐりー	藤原泰、 武子剛二
31	1999.3	土谷 武 開敏が 願主生 学芸員 平野 扶住子 青木正徳 秀実 「おもかる人」	#5 オーストリア、 ハンガリ美術 高島旅行 ウイーンの晩 の物語 豊田明子 #20 秋高裏旅行 静岡の美術 旅行随想 前田仁 青木正徳秀実 「おもかる人」	アーティスト私展 中村 肇 岩瀬 伸之 カツラ 「アートを愛するナ ウの旅」ブライ アムの旅にて	美に喜ぶ 人生の出会い 大金義男	伊勢 伊藤市原 (陶芸)	茨城の 日本人たち	近美 前田寛之の 芸術選 主任学芸員 小堀厚一 天心 宇都の日本画 主任学芸員 大森伸一	茨城の 日本人たち	つくば 「四つの消点 一人想像の 表現」展 井川方英	井川方英
30	1998.11	寺田慶子 花 章 学芸員 中田廣則	寺田慶子 わが跡 寺田茂で磨く 幻の「金剛羅子」 洋自作、新井良夫	美に喜ぶ 市と喜ぶ 寺田慶子	伊勢 若木 実 (陶芸)	茨城の 日本人たち	天心 イングに 魅せられた 日本画家たち 学芸員 吉田洋子 つくば 相工 喜と 御田 俊の世界 井川方英	マリーロー ランソン喜 学芸員 今井 寿	近美、 マリーロー ランソン喜 学芸員 今井 寿		

号	発行	p1	p2	p3	p4	p5	p6	p7	p8	備考
29	1998.7	ジャニ ボーラーサ =マリアル ロフール の書 学芸書 今井 有	会員 の皆さ んとす れあれ て会 長、 室伏 勇 学生 室伏 勇 学芸書 今井 有	正職員紹介 近美 天心 岡田 WAGAN アリ正前 り美前 りゆう 雅子 史翠英 史翠英 つくば 吉田口マン活版 分冊版 舟下力集	評勢 村山 寛 (千葉市)	ロジェ・マレルブ ミナヴァール (ジエマニヨウ)	田島 の中に 足るを知る くらし 鹿村生芳	吉田 准経を率しむ 三代鹿島代	秋の企画展 紹介 近美 巨匠たちの 旅書 オルブリット ニックス 英劇世界	室伏勇会長 横須 +いたしと始 →朝日書店
28	1998.3	シャルル= デスピオ ジャック ラ・ラ (ジャコ) 学芸書 今井 有	友の会10周年を記念して 「今までと…これからと」 記録上映会を開催 白川 博、全沢 達、 奥羽ひ恵子、近藤清子、 畠田真喜、吉野文子	#18 秋実市 施設旅行 定立・庄島 県立・ひろしま 美術館 旅行1日白の 感想 内山裕子 感動の庄島 須藤幸子	#4 オランダ美術 施設旅行 ハーブでの 研修を中心 大原 順 吉井謙二・ケイア ム・カズキ・トトロ チチカカ湖漫遊!	評勢 道原 浩 (千葉市)	企画展紹介 近美 岸田創士の時代 そしてその後 主任学芸員 小原淳一 天心 東人蔵名作展 学芸書 高柳桂子	写真実技講座 講師 青木正徳 作谷村 香子、 谷中道子、 秋本忠次、 鈴木理吉、 秋の千葉遠足 スケッチ オランダ美術 施設旅行 山田一二、 畠田監司、 小島聰子、 武藤伸子、 佐藤弘一・しげ工	3/31/98 横須 2,266合覧	
27	設立 10周年 記念号 1997. 11.	中西利雄 飯泉出晴 副主任 学芸書 山口裕子 事務局長 藤井和亮 p9	講師の後日に始 友の会10年 に寄せて 増税 加藤知雄 会の会長の演 事務局長の演 の歩み	10周年を記念して 「今までと…これからと」 記録上映会開催 色川 博、全沢 達、 奥羽ひ恵子、近藤清子、 畠田真喜、吉野文子 色川 博 10周年記念会文部省令色 交換会に参加して 佐藤京子 「おま」解説まる	10周年を記念して 「今までと…これからと」 記録上映会開催 色川 博、全沢 達、 奥羽ひ恵子、近藤清子、 畠田真喜、吉野文子 色川 博 10周年記念会文部省令色 交換会に参加して 佐藤京子 「おま」解説まる	評勢 道原 (千葉市)	企画展紹介 父で贈る 一小畠 透 小姐 田 小畠 田 (pp.8-9)	父で贈る 一小畠 透 小姐 田 小畠 田 10周年 記念号 西子文庫 会員 田谷 典子氏著書	97/6/18 山本会長 ご逝去	
26	1997. 7	ジャクリン ・ボロッフ 無題 学芸書 中田智明	開催10周年にち 昨日・今日・そして明日へ 副会長 藤原敏子 想い出あれこれ 青木正徳 手押しの出席からは10年 牧野志恵子	わたしと捨 田中の 吉澤と… 豊山晋次	評勢 有田 勉 (千葉市) 朝倉 佐奈美	企画展紹介 近美 ニューヨーク スクリブル 学芸書 中田智明 花—イメージ 主任学芸員 山本哲士	つくば 小姐 進 肇 苗崎学芸員 中田智明 花—イメージ 主任学芸員 山本哲士	#17 香川実宿 施設旅行 宇都宮 「風の志人た ち」を求めて 林 雄代 「おま」 解説まる	平井樹樹 デザイン室	
25	1997. 3	ジャンニ フアンチャ ミラー 落ち替 若い 喜慶 学芸書 舟下力英	#3 イタリア美術高専旅行 ミラノ紀行 井上吉郎、 フレンチ、 井上敏江「ガルツィア・アル・ グラン・エスケマ」 アッソジ、小林初美、 渕野正美スケマ「アシングルの夢」 ヴェネツィア 吉村 崑、 ローマ紀行 星 正博、 ラヴェンナ聖堂と浴 田原 伸	わたしと捨 時代・民族を 経て 世間通子	評勢 青木芳賀 (千葉市) 朝倉 佐奈美	企画展紹介 近美 ミレーと「0/1」 ビンゴの自 家「たぢ」屋 西尾学芸員 舟下力英	つくば 茨城県天心記 念五周年特別 研修実習室 茨城県天心記 念五周年特別 研修員会 つくば 筑波大学二農	#16 秋実市 施設旅行 植松・高麗 船越は 作曲の人筋 朝倉由 由 游美Q&A		
24	1996. 11	畠田真喜 洋助と 二見慶 学芸書 中田智明	特別寄稿 「わが身、半尾人を語る」 よだの墨をめぐって 日本書院 小川恒岳	わたしと捨 教舎で見た絵 内部构造	評勢 松田正己 (工芸室) 朝倉 佐奈美	企画展年内 近美 「ブーダンと オーフルールの 藝術たち」 副主任学芸員 山口和子 つくば 「第四回越境 の世界」展 西尾学芸員 中田多昌	新規品紹介 高島武二 「大森の日」出 任長 後藤弘文 後 淳 「春」を描く 羽地真右 比エラの想い出 高柳桂子	寺崎義庄 講師 青木正徳 作品品目書 二、日本書院、 立原、喜慶 男爵、中根 茂	游美Q&A、	

号	発行	p1	p2	p3	p4	p5	p6	p7	p8	備考	
23	1996.7	ムリーリョ 少年と大 冒険 学芸員 向井力也	友の色の登場へ 個性を磨く 羅長 加藤由美	代議員会新曲 平成8年原の 主な事業計画	わたしと絆 【道主】を包むる モラ 一括から包む 受け渡しー 前半書志男	評筋 一色柳村 (星・別府) 新曲 合併公演	正直裏事内 近美 エルミタージュ 美術館	つくば 光の原風景 ーエンス- アート展	新取材品紹介 安田市官 開川宣健	副幹長 大島雄	
22	1996.3	守屋 多々喜 平野翠実 納経 企画委員 金原宜行	#2. スペイン 始めての スペイン 佐木敏恵 『ゲルニカ』へ の想い 平野翠実	美術旅行 心のあらごと スペイン 中井季子 石井敏スケテ 【七日にして】	わたしと絆 絆 心の やすらぎ 新井実穂子	評筋 田中三紀記念 見きめひつ 美術 公報公演	新取材品紹介 松井康博 甲子園上大審 付「純白」 副主任学芸員 山口阳子	世界の美術館 美術 世界の美術館 美術 横浜 自由が大事 小室信二 絆を蓄くことの 豊富 武蔵美術	美術館ボラン ティア紹介 ウイーグエンド 班 伊東美智子 『友の会合』 の輪』の盛大 にご協力を		
21	1995.11	則原英造 主 る 副主任 学芸員 平野 猪庄子	竹楽/茨城県天地心記毛五浦 美術院(別館)天心と日本画の 革新運動 茨城県教育文化課 五浦美術館総務課美術部	五浦と天心 両親のゆかりや天心の場所 美術館建設の後書き 天心記念室など 特色のある展示も	わたしと絆 旅と絆 三上清一	評筋 高橋義治 (原稿用意)「 執筆 白井英美 合併公演	企画裏事内 近美 空の形土 一松井康博の 世界一 執筆	当選美術講座 講師 青木正博 作品 美術館 草薙なつみ 中井 16歳子 り室綱 スケッチ会 講師 森井和典、 石井 駿 初めてお話しして 高橋た子	美術館ボラン ティア紹介 ウイーグティ 班 根本 未		
20	1995.7	ルノワール 絆を持つ 子供 副幹 学芸員 舟木力也	ごきいだづ 死的な美術館 活動を 羅長 加藤由美	代議員会寄告 #13 春の美術館 旅行 郡山市立 美術館	わたしと絆 私の夢「抱」 山本京子	評筋 杉井青子 (政治作家) 新曲 合併公演	企画裏事内 近美 16-18世紀 ヨーロッパ 絆壁	ファミリ美術館 95 若き日の 日本晴明	美術館ボラン ティア紹介 図書資料 監修組 佐藤一夫 舟木秀夫 部長	加藤由美 羅長 梅津秀夫 部長	
19	1995.3	猪方忠助 隼野涼 副主任 学芸員 平野 猪庄子	わたしと絆 絆の準備へ を知る 石川光明	序筋 大西朝 (江差添水作) 新曲 合併公演	#1 フランス、モ ナコ美術 格蘭旅行 私のスンド グラスの旅 立原邦子 オルセー、ルー ブルを訪ねて 山田一二	オペラ歌手 吉澤尚子さん の愛がいき 寄せに 田山龍作	世界の美術館 事内② マレ地図と ビカソ美術館 (アリ)副 主任学芸員 山口阳子	近美 北関東の 文人墨客 つくば グニ・ カラヴァン劇	美術館ボラン ティア紹介 インフォメー ションボラン ティア 根井喜一	海外開拓 ★世界の美 術館事内了	
18	1994.11	麻生三郎 母 子 副主任 学芸員 小堀 勇一	特別寄稿 私と悲喜人生 皆木良三	新曲公演の こ苦難を かの会会長 山本基男 講演 鶴巣尚子 本村 良 皆木の初にせう 皆木利夫子	新取材品紹介 桂ゆき 「ひまわりの 秋く干す」 美術 外盤和子	わたしと絆 ゴッホとの 出会いの なから 大曾 力	評筋 田中透太郎 (原稿物) 新曲 合併公演	写真講座 講師 青木正博 中西智子 作品 大曾透一、 林賀久	94/9/14 正道長 ご遺言		

号	発行	p1	p2	p3	p4	p5	p6	p7	p8	備考	
17	1994.7	ジャン・オノ・レーフラゴナル 生まれた島地	折原謹品紹介 丹波道武 「藤原朝と鉢」 吉田学芸員 舟木力英 歌謡 「Rainbow passes slowly」 宇佐美 外畠和子	つくば美術館 「造形美術品 から風景画の 世界」 分野長 大原利雄	わたしと カッセルの トクメンタ展 村松仁子	洋詩 城戸豊男 (陶芸家) 高橋 金吾吉	ファミリ美術館 94 浮世絵の 子どもたち 吉田学芸員 舟木力英	世界の美術館 年内④ ティートガグリー イギスコウパン 吉田学芸員 舟木力英	#11 音の美術館 山内 群馬県立 美術館	代頭真理也	
16	1994.3	石井伸幸 木暮嵩都 泡	中村義の アトリエと個 像を巡って 喜井和亮	#10 秋葉原旅行 西尾 前のところび 加藤次男 出典の楽しみ 伊藤明子	わたしと絵 寺田先生の 絵と机 舟木正雄	洋詩 清藤了三 (モザイク作家) 高橋 金吾	後藤 風土・歴史を 見る 重岡利夫 絵と美しい カラフルの中から 井 春子 ボランティアフレ ンチリーフ語	近美 新谷涉山原 主任学芸員 中島多紀 つくば 「日本近代美 術の歩み」	世界の美術館 年内⑤ ボストン美術館 (アメリカ) 主任学芸員 舟木力英		
15	1993.11	ペリジー/ 若い男の 肖像	特研新書 心ごろひた若草の香 藤部正一郎 先生で遊ぶ 田中良、茅原豊欣子	所蔵品紹介 近美 カミュニケーション 「ブリーフ」の 丘からの眺め、 ポン・クワーズ 主任学芸員 舟木力英	わたしと絵 花を描いて 百瀬 岩田 正	北九美術館の 印象 市販・三輪卓 立・近藤の次の 会美術館旅 行に参加して 大生義男	つくば 村山宏基 ボランティア フレンチリーフ 6種	美術講座 小町の中の 美術電影 講師 舟木正雄 作品・林田實、 野内一葉、 横山慶元也 友の会 会員募集			
14	1993.7	舟越洋武 ANNA	平成5 事業計画 一般会員 1673名 特別148口 事業局異動	所蔵品紹介 小川孝輔の 「内閣」を 主任学芸員 北島 雄	わたしと絵 私の番の 一枚の絵 近藤清子	洋詩 奥田コウタク (陶芸作家) 高橋 金一	ファミリ 美術館 93 近美 「原田季吉の 世界展」 つくば 第22回現代 日本美術展	後藤 「近代美術 を訪ねて」 原倉 俊 「恋の美術館」 磯崎紀子 #9 香美南高美術款 行千葉 川瀬吉美館	世界の美術館 年内⑥ アート・インス ティチュート オ・シカゴ (シカゴ美術館) 学芸員 外畠和子	友の会 事務局異動 保立初美 + 寺門匠子	
13	1993.3	アメデオ・ モディリ アーニ 大きな 鳩子を かぶった ジャヌア ・エビュテ ルス	所蔵品紹介 つくば 中野利雄 「魅惑と愛」 分野長 大原利雄 入会のお説き 近美 ごあんない	#8 秋葉原旅行 一般会員の 会 駒込へ 私の美術 高橋美術 旅行 久保田根子 スクリッチ会 講師 石井勤、 喜井和亮 スクリッチ会に き初めて 高野聰男	わたしと絵 印像系との 出会い 室作 美	洋詩 越野農夫也 (陶芸家) 高橋 金子	文化講座会 『隣の心』 大田台子 (記念 友工)	後藤 自然に親しみ ながら 武藤千子 夢見る女子 佐藤大段 ボランティア フレンチリーフ 5組 海寺芳美	世界の美術館 年内⑦ クリュニー 美術館 (アリ) 山口学芸員		
12	1992.11	西山伸幸 桂花	学芸員からの メッセージ 所蔵品紹介 下村翠山 「大原の窓」 主任学芸員 舟木力英	慈志と明治を つなぐ日本自 企画展 金原它行	近代日本画を 所蔵するが 大正期の日 本画壇の開 拓にあたって 主任学芸員 長森貴之	洋詩 美術館 92 創作の壁ゴル モニクをふ りかえって 主任 清水 健	洋詩 清水静心 (書道) 執筆 小林洋子	わたしと絵 土に耗した 連昌 鈴置敏子	写真撮影に 参加して 講師 舟木 先生へ 喜び思子 作品牛田、 佐藤吉一 友の会入会 お知らせ 友の会入会へ のお説き	備考 スタイル 変更	

号	発行	p1	p2	p3	p4	p5	p6	p7	p8	備考
11	1992.7	野田忠央 細田の冬	事実計画 平成4年度茨城県近代理事会年会 行事予定及び 年会開催年月 計画表	平成3年度 決算 平成4年度予算	世界の美術館 年内⑤ エルミタージュ 美術館 (ロシア共和国) 小原学芸員	わたしと絵 遊びをめざす 出会い 立候功男	よこがわ 四季の花を うきうき 島田喜志子 3年間の美術 鑑賞の旅 立候功男	つくば美術館 だより 「デューラー— 色彩・筆触・相 対照」	屏野 小林恒吉 (日本藝術)	大島雅 副館長代任 わたしと 絵
10	1992.3	上村和也 久喜	冬の杜 副理長 平井輝	#6 秋の 美術館旅行 展覧、宮城 復興美術館 を訪れて 小原博子 青葉いづみ の太郎 岡本季也 友の会企画 委員会。	世界の美術館 年内⑥ アムステルダム市立 美術館 (オランダ)	秋の スケッチ会 講師 藤井和典 石井勤	美術 美術作品を広 く紹介するこ とに喜びを 会田信一 美術館で開催… 野中邦子	横山 梅山大器の 世界 河北洋輔	屏野 伊藤公彦 (同上) 斎藤一夫	トガの会会員 委員会 佐藤平子、 小畠淳子、 伊藤義子、 青木正達、 大塚典子、 辻邊幸友
9	1991.11	アリバベラ マルケ ノートルダム 大聖堂(7月 の見光)	正規長に聞く 桜 喜富・愛知・ 透藤清子、奥村雅子、山本季子、島引一夫、石井勤、 青葉いづみ、保田初美				屏野 山本文彦 (牛飼町)	つくば美術館 だより (企画展) 「マンハイと 友人たち」		
8	1991.7	横山大器 千葉啓司 八百川 用輔 (部分)	梅を広 げよ 会長 山本 進男	平成3年度策画会 報告 平成3年度茨城県近 代理事会年会 及び の会行事予定表 平成3年度事務計画	世界の美術館 年内⑥ ブリッジ 美術館 (スイス)	ファミリー 美術館 ほら愛これる 藝術の跡	横浜 私にこっこの ゴーリキン ウイーク 井坂光男と りでかわい 小田政子	つくば美術館 だより (所蔵品) 浮足鳴鳥の力 「西洋の近代 絵画」	屏野 山崎 達 (牛飼町) 斎藤一夫	新井事務 部長代任 青葉いづみ 事務局長 代任
7	1991.3	川嶋敏子 天香田	#4 私の美術館旅行 大阪、夢二美術館	世界の美術館 年内⑦ メトロポリタン 美術館 (アメリカ)	屏野 ゲルト・ グナーナ (同上)	よこがわ 千葉県と美術館 宇都宮弘農 忙しさの中で 山口みどり	ボランティアの シゴルー、堀 源治芳久 つくば美術館 だより 筑波大学美術 類作画から	新井事務課 初めて朝り 上がった 喜び	川嶋敏子 千波道野 スケチ合	
6	1990.11	オーギュス トロゾン 青柳昭代	開かれた美術館 —場所に見立て —ゴッホへの旅 副館長 平井輝	世界の美術館 年内⑧ プラド美術館 (スペイン)	ファミリー 美術館 見聞記	よこがわ おにせられて 佐藤千子 との出会い 上田阳	つくば美術館 だより 「市瀬良品と 海外展」	屏野 原田麻耶 (企画室美術 類作)		
5	1990.7	青村 智恵子 くだもの かご	充実し た活動を 会長 山本 進男	平成2年度策画会 平成2年度 茨城県近代理事会 年会事務計画及び の会行事予定表 青葉開明の改正回顧 平成2年度事務計画 及の会入会状況	世界の美術館 年内⑨ ボローニャ 国立美術館 (イタリア)	つくば美術館 オープ	よこがわ すばらしい近 代理事会 青葉 私の歩く青 年子千子	ボランティア フレッシュホール 3月 吉野安子	屏野 鈴木根三 (牛飼町)	企画展会 発足 青木正達、 荒井泰介、 大塚典子、 小畠淳子、 佐藤京子、 伊藤義子

号	発行	p1	p2	p3	p4	p5	p6	p7	p8	備考
4	1990.3	ピエール・オーギュスト・ル・ワール・討論椅子の導入	「つくば美術館」(仏)建設する 開拓記念講演会をひらく	#2 私の藝術旅行 MOA 美術館 三浦豊 窓に違うな MOA 窓正徳 心やすらか 三浦豊 新井道子 お前が 感想は?	#2 私の藝術旅行 MOA 美術館 世界の藝術館 案内② デトロイト 美術館 (アメリカ) 木村良夫、 永田敏子、 児島忠子、 川上俊夫、 鶴見田誠志子	木村良夫、 永田敏子、 児島忠子、 川上俊夫、 鶴見田誠志子	よこがお 美術館でリフ レッシュを 済義慶 られあいの場 色川博 平和のありが たさ 今尚正一 グループ展を 白昼して 河原佳代子	ボランティア フレッシュリー ー2選 今朝由美子 VOICE みんなでお手を 会員登録を しています スケッチ会 石井豊 【回線を揃え てきましたか】	伊勢 片山巳代子 (日本画家)	
3	1989.11	河崎曉彦 美人鍵盤 劇団		匠館長を囲んで 與引一夫、石井豊、近藤清子、佐藤子、奥村雅子、山本季子 事務局 奥井和男		世界の美術館 案内③ ルーブル 美術館 (フランス) ガイド ・三浦豊 ・MOA 美術館	匠館実技講座 VOICE 美術鑑賞ミニ ガイド 記念 記念 (うひ)に について	伊勢 松井康成 (脚芸者) 小林 石井豊 竹内義男 茨城県文化事 業局		
2	1989.8	友の会 だより ジユール・ バスクン 白いリボンの少女	ますますの 元気を 会長 山本酒男	平成元年原書 奉納目 友の会 役員一覧	世界の美術館 案内③ オランジュリー 美術館 (フランス) 木村良子、 近藤清子 166名参加 自然と一緒に 楽し 近藤清子	よこがお 近代美術館と 共に 芸術館 好きな世界で 中村伸子 絵を描く喜び 池内愛子 私の生きる 人見善四郎	ボランティア フレッシュリー ー1選 大喜和代	伊勢 後藤義一 (脚芸者) 小林 石井豊 匠館実技講座 VOICE お知らせ	立全国美術 旅行 合によがお、 立野勢 会員登録 與引一夫、 石井豊、 近藤清子、 馬場雅子、 山本 酒男、 小林 豊子、 奥村 雅子、 事務局長 奥井和男、 局長 伴立初美、 「友の会だよ りの名付け 役等	
1	1989.2	友の会 だより 小林幸穂 本人と 繩子	会員が狙い手 となって 会長 山本酒男 会員の監督の ご支援を 賀茂庄秀夫 友の会活動に 賛同 小川けみ子、 庄瀬みや子、 夏目明子	茨城県 近代美術館 友の会会員、 役員一覧 友の会 入会登録	世界の美術館 案内③ オルセー 美術館 (フランス) 木村良子、 近藤清子 166名参加 自然と一緒に 楽し 近藤清子				山本 酒男 友の会会長 1988開館 総長:庄秀夫 立世界美術 館案内 合認名「友 の会だより」	